

## 【南小学校】

メリット、良い点、運営上の利点 等	デメリット、望ましくない点、運営上の課題等
<p><b>【生徒理解・生徒指導・学習(教科)指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の学習状況や学習内容の把握がしやすく、個に応じたきめ細やかな学習指導がしやすい。</li> <li>授業における話合いや意見交流、学級活動等における話合い活動が適切な人数で行える。</li> <li>児童の活躍の場を多く設定することができ、たくさんのことを経験することができる。</li> <li>異学年交流を重視した教育活動を進めやすく、全校児童の交流が深まりやすい。また、柔軟な学習形態での学習が可能である。</li> <li>教材・教具などの個別の準備や、実験等の具体的活動の場を保障することができる。</li> <li>児童それぞれが特性をお互いによく理解しており、人間関係が深まりやすい。</li> </ul> <p><b>【学校経営・学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営方針を徹底しやすく、全教職員共有理解のもとで、児童への指導体制をつくりやすい。</li> <li>教職員の意思疎通が容易であるため、状況の変化にも臨機応変に対応することができる。</li> <li>遠足や校外学習、学年行事などにおけるフットワークが軽い。</li> <li>児童や教職員が一体となって学校の行事や伝統、文化等を継続する体制をつくりやすい。</li> </ul> <p><b>【保護者・地域との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域の支援・協力が得られやすく、中学校区内の地域コミュニティと児童生徒、保護者、学校の協力連携関係が密接になる。</li> <li>地域コミュニティがコンパクトで、見守り体制等の充実が期待できる。</li> <li>保護者や地域と連携した教育活動の計画や実行を推進しやすい。</li> <li>地域への愛着がより醸成しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス替えが行えないため、児童間(保護者含)の人間関係が崩れた場合、修復が難しい。</li> <li>人間関係づくりの機会が乏しく、幅広い人間関係や社会性が育ちにくい。</li> <li>児童間の競争心があまり高くない。</li> <li>教員一人あたりの指導人数が少ないので、手をかけすぎることがある。</li> <li>集団での学習活動が必要な体育や音楽などで、効果的な学習を組織しづらい。</li> <li>学年を一人で経営することで、指導計画や教材研究などを個人作業で行うことになる。</li> </ul> <p><b>【保護者・地域との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大中規模の学校と同質の校務を分掌することになり、複数の校務分掌を兼ねることになるなど、教職員一人当たりの業務量が多い。</li> <li>出張等が重なった場合、校内の填補体制に支障が生じる場合がある。</li> </ul> <p><b>【保護者・地域との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童数減少に伴い家庭数も減少することから、PTA 活動の持続可能性に危機感がある。</li> <li>最も身近な教育資源である、保護者ボランティアの担い手が減少傾向にある。</li> </ul>

## 【南中学校】

メリット、良い点、運営上の利点 等	デメリット、望ましくない点、運営上の課題 等
<p><b>【生徒理解・生徒指導・学習(教科)指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が全ての児童生徒に目を配ることができる。</li> <li>・一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな支援が可能となる。</li> </ul> <p><b>【学校経営・学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数担任制を敷くことが可能であり、担任業務の軽量化が図れる。</li> <li>・学年単学級により、校外学習、学年行事などにおけるフットワークが軽い。</li> </ul> <p><b>【保護者・地域との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区内の地域コミュニティと児童生徒、保護者、学校の協力連携関係が密接になる。</li> <li>・地域コミュニティがコンパクトで、見守り体制等の充実が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス替えが行えないため、生徒間(保護者含む)の人間関係が崩れた場合、修復が難しい。</li> <li>・人間関係づくりの機会が乏しく、中学卒業後の新たな生活に適応できるかが心配である。</li> <li>・クラスマッチなどの学級対抗行事の設定が困難で、学級で団結する学習機会が少ない。</li> <li>・中学校の教科指導において、教科担当者が複数学年を担当することとなり、大中規模校に比べ、教材研究の負担が大きい。</li> <li>・専科が校内一人の教科が多く、教科指導に関する校内での相談体制が整わない。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大中規模の学校と同質の校務を分掌することになり、複数の校務分掌を兼ねることになるなど、教職員一人当たりの業務量が多い。</li> <li>・出張等が重なった場合、校内の填補体制に支障が生じる場合がある。</li> <li>・特にチームスポーツにおける部活動の安定的運営が難しく存続が危うい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒数減少に伴い家庭数も減少することから、PTA活動の持続可能性に危機感がある。</li> <li>・最も身近な教育資源である、保護者ボランティアの担い手が減少傾向にある。</li> </ul>